

【 ICT 活用実践紹介】

【花里小 6年生の実践】

教科：国語（作文指導なら可）

活用ツール：「MetaMoji ClassRoom」（「Word」でも可）

類型：B4（表現・作成）

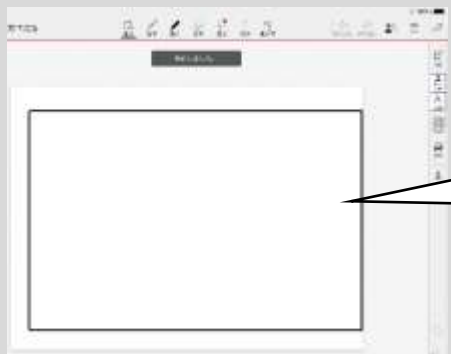
内容：「卒業文集」

1. 【準備】 教員は、「MetaMoji ClassRoom」を使い、原稿のノートを作成しておく。
2. 【授業】 児童は「MetaMoji ClassRoom」の原稿ノートを使い、文章を作成する。
3. 【授業】 推敲・添削を行う。
4. 【授業】 自分が作成した原稿を確認しながら、本番の用紙に写す。

授業者の感想：原稿用紙に書く場合、下書きをしてから、ボールペンでなぞるとうまく書けず、仕上がりがよくない。本番の紙に直接ボールペンで書くようにできるといいなと考えていた。今回、下書きを「MetaMoji ClassRoom」で書く（打つ）ことによって時間短縮になった。ノートの段階で行数を入れておけば書き写す時にも失敗が減ると思った。

児童の感想

- ・紙に下書きを書くと、何回も書くせいか、手が痛くなるが、「MetaMoji ClassRoom」だと打つので、ローマ字を覚えていれば楽だと思います。
- ・何回も書き直すと消すのも大変だし、紙が黒くなって嫌になるけど「MetaMoji ClassRoom」はそれがないので、下書きは「MetaMoji ClassRoom」のほうがいい。



- ・原稿の行数、時数を確認する。
- ・フォントと字の大きさを確認して枠を作る。
- ・今回は児童が作ってくれた。

【岡田のおもいつ記】

今回は、ICT 機器の良さを活用した実践だと感じます。「書くこと」の学習においてタブレットを活用する良さは、以下の3点だと思います。

- ①段落の入れ替え、誤字脱字などの修正などが容易にできる。【修正】
- ②表示される文字が見やすく読みやすいので、自分の文章に自信が持てる。【見た目、見やすさ】
- ③文章をたくさん蓄積できる。【保存】

特に①では文章を書き直す負担が減るため、よりよく書き表すことができると考えます。②では、お互いに読み合う場面や推敲を行うときに実感することです。加筆、変更もしやすいので今まで以上に交流する意味が増えると思います。

「書くこと」に関する抵抗感を減らすことで、自分の言葉で伝える楽しさを味わわせてあげることができると思います。